

第117回リニアドライブ技術委員会議事録（案）

日時：平成21年12月11日(金) 13:30～16:00

場所：JR東海 品川ビルA棟

出席者：委員長 脇若（信州大）

副委員長 北野（JR東海）

委員 小豆澤（東京都市大）、伊藤（日立製作所）、岩松（鉄道総研）、大崎（東大）、岡本（東海大）、花岡（東洋電機製造）、樋口（長崎大）、増澤（茨城大）、森下（東芝）、矢野（産総研）

幹事 村井（JR東海）、水野（信州大）

幹事補佐 鳥居（東京都市大）、矢島（SMC）（記）

オブザーバ 渡邊（IEEJ）

提出資料

- 117-1 第116回リニアドライブ技術委員会議事録案（矢島幹事補佐）
- 117-2 リニアドライブ技術委員会名簿（矢島幹事補佐）
- 117-3 平成21年度 リニアドライブ技術委員会 活動報告（脇若委員長）
- 117-4 平成22年度（H22年4月～H23年3月）活動計画（2次案）（脇若委員長）
- 117-5 平成22年度 電気学会東京支部連合研究会 開催ご協力のお願ひ（脇若委員長）
- 117-6 リニアドライブ研究会のご案内（鳥居幹事補佐）
- 117-7 三菱重工殿 HSST 試験線見学会報告書（花岡委員）
- 117-8 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会（MLV）活動報告（森下委員）
- 117-9 医用アクチュエーション周辺技術の高度化に関する協同研究委員会(ECD)活動報告（岡本委員）
- 117-10 新世代アクチュエータの多自由度化可能性調査専門委員会（MDD）活動報告（矢野委員）
- 117-11 第7回 環境調和型磁気支持応用技術調査専門委員会 議事録（森下委員）
- 117-12 第3回 新世代アクチュエータの多自由度化可能性調査専門委員会 議事録（矢野委員）
- 117-13 第4回 新世代アクチュエータの多自由度化可能性調査専門委員会 議事録（矢野委員）

議事

1. 議事録確認

資料117-1を用いて議事録の確認が行われた。以下の点を修正することで承認された。

- (1) 誤記修正：1.(2)内、「再投稿」→「投稿」、3.6内「矢野委員会」→「矢野委員」
- (2) 追記修正：4.3内、「以下の意見が出された。」→【以下の意見が出され、脇若委員長から研究調査運営委員会に報告することとした。】

2. 名簿の確認

資料117-2を基に委員名簿の確認を行った。変更等はなかった。

3. 報告事項

- 3.1 脇若委員長から10月20日に開催された役員会および第95回（H21年度第3回）産業応用部門研究調査運営委員会（10月24日）の内容に関して以下の報告があった。
 - (1) H21年度全国大会（明治大学）ではD部門から4件提案されているがLD技術委員会では提案していない。産業応用部門大会に提案する予定である。
 - (2) 運営委員会では「活性化」について7割の時間が割かれ、特に以下3点について討議された
 - ・D部門の取り扱う分野
 - ・扱う領域
 - ・技術委員会の名称変更、融合
- 3.2 資料117-3を基に、脇若委員長から平成21年度LD技術委員会活動報告について説明があった。6月に予定していた見学会（交通博物館）は削除。10月26・27日に開催された研究会の参加者数が22名であることが確認された。
- 3.3 脇若委員長からLDIA2009の論文のD部門誌への投稿状況について報告があった。外国から7件の申し込みがあり、電気学会からLDIA特集のような形でLDIAの論文と分かるように掲載したいと提案されている。また、電気学会事務局から次回LDIAでは直接電気学会へ投稿して欲しいと依頼された。

- 3.4 大崎委員から11月中旬に開催された ICEMS2009 について報告があった。モータドライブを中心に400件弱の発表があった。700件の投稿があり、600件が採択され、論文になったのは400件)。今回は韓国で開催される予定。
- 3.5 脇若委員長から機械振興協会でクロノファンクがリニアモータで表彰されたと報告があった。クロノファンクの方に調査専門委員会の委員をお願いすればよいと意見が出された。
- 3.6 大崎委員からリニアドライブ研究会資料の定期購読者が99人となったことが報告された。景気悪化に伴い、他の研究会資料の定期購読者も減っている。
- 3.7 資料117-6を基に、鳥居幹事補佐から3月に開催されるリニアドライブ研究会について案内があった。鳥居幹事補佐が締め切り日時を確認し、LD技委のメーリングリストで連絡する。
- 3.8 資料117-7を基に、花岡委員から12月4日に開催された HSST 試験線見学会の報告があった。

4. 審議事項

- 4.1 資料117-4を基に、脇若委員長から平成22年度の活動計画(2次案)が説明された。討議され以下のように決定した。
- ・鉄道博物館の見学会はJR東の研究所の見学会とする
 - ・8月の研究会はRM技委と共催とし、LD技委の窓口は鳥居幹事補佐とする
 - ・10月の研究会はECD委とMDD委の担当とする
 - ・12月の研究会は新設されるモータドライブ技委と共催とする
- 4.2 資料117-5を基に、脇若委員長から電気学会支部連合研究会(平成22年8月開催)が説明された。8月の研究会を連合研究会で行えるか討議され、鳥居幹事補佐が共催のRM技委と調整し、可能であれば行うことになった。
- 4.3 水野幹事から産業応用部門大会のシンポジウム(3月末申し込み締め切り)について提案があった。新世代アクチュエータの多自由度化可能性調査専門委員会(MDD, 矢野委員長)がシンポジウムを行うことに決定した。
- 4.4 電気学会全国大会(3月明治大学)の締め切りが1月7日と迫っており、リニアドライブ関係の投稿件数を増やすために投稿を呼びかけることになった。その際、リニアドライブを中心にやっている大学が少なく、発表を呼びかける先がないなどの意見も出された。
- 4.5 技術委員会で研究会および国際会議の日程表が提出されなくなっており、提出して欲しいと要望があった。Webで作ったらよいとの意見も出され、鳥居幹事補佐が検討することとなった。
- 4.6 脇若委員長から次期MEL委について以下の説明があった。
- ・渡邊(IEEJ)殿に委員長をお願いし、ご了承いただいた
 - ・MEL委の技術的な内容を受け継ぐ
 - ・アーカイブ的に将来を見て今までの歴史的な内容をまとめる(成功例・失敗例・特許の周辺など)
 - ・2月5日の技委で設置趣意書案を討議し、4月から発足する
- 渡邊オブザーバから、技術の伝承のため、歴代の委員長など過去を話せる人と呼び、若い人と対話型でリニアドライブ技術の20年の流れをまとめたい。ただし、電気学会の調査専門委員会として活動するので、内容は技術委員会で決めて欲しい、と説明があった。
- 以下の意見が出された。
- (1) 話し手がオブザーバでよいのか? 調査専門委員会より研究会の方がよくないか?
 - (2) オブザーバのいる所で委員会を開催すればよい
 - (3) 企業だと東京近辺で開催されると出席しやすい
 - (4) 会合を減らしても成果の上がる方向が良い
 - (5) リニアモータの文献が古い。応用ハンドブックをバージョンアップする必要がある
 - (6) 磁気浮上もバージョンアップしたい・・・ただし、出版社がのってくれるか?
 - (7) 昔はLD関連の本が繋がって出版されていたが、現在リニアドライブを勉強しようとしても本がなく困っている。
 - (8) 制御など、他の分野で頑張っている人と呼び込むとよい
 - (9) MEL委はセンサなどの要素の情報があってよい

5. 各調査専門委員会活動報告

資料117-8~117-13を用いて、各調査専門委員会から活動報告があった。

以上